



Jems News

No. 157

2026 年 2 月 15 日

日本環境変異原ゲノム学会

<https://www.j-ems.org>

***** 学会・シンポジウム開催のお知らせ *****

「日本環境変異原ゲノム学会 第55回大会 東京」のお知らせ

大会会長：戸塚 ゆ加里（星薬科大学）

日本環境変異原ゲノム学会第 55 回大会は、2026 年 11 月 14 日・15 日に星薬科大学（東京都品川区）にて開催致します。
本大会のテーマは「ゲノム科学で探る、環境要因と健康リスク」といたしました。環境要因によって誘発されるゲノム・エピゲノム変化と、それらが健康リスクへと結びつく分子機構について、基礎研究から応用研究、さらには規制科学に至るまで、分野横断的な議論の深化につながるような特別講演やシンポジウムの企画を進めております。また、国際的な視点からの議論を深めることを目的として、健康リスクに関して共通の課題を有すると考えられる韓国および台湾の関連学会との合同シンポジウムも企画しております。さらに、医療機器の遺伝毒性評価に関するシンポジウム開催も予定しており、アカデミアのみならず企業からご参加の方々にも高い関心を持っていただけるものと思います。

大会 1 日目の夜には情報交換会も行いますので、皆さん是非ご参加ください。

なお、本大会では一般シンポジウムを公募いたします。詳細は大会 web サイトにてご確認ください。

現段階の開催概要は以下の通りです。

1. 日程

2026 年 11 月 14 日（土）～11 月 15 日（日）

QSAR ワークショップ、評議員会、研究会定例会は前日 11 月 13 日（金）に予定

2. 会場

星薬科大学

〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41

最寄駅：東急池上線 戸越銀座より徒歩約 8 分

東急目黒線 武蔵小山より徒歩約 15 分

都営浅草線 戸越より徒歩約 10 分

(<https://www.hoshi.ac.jp/gaiyou/map/>)

3. 大会テーマ

「ゲノム科学で探る、環境要因と健康リスク」

4. 特別講演

小川 誠司 先生（京都大学大学院・医学研究科・腫瘍生物学講座）

5. シンポジウム・ワークショップ

日韓台・合同シンポジウム 1：ゲノム科学による環境要因と発癌メカニズムの解明（仮）

日韓台・合同シンポジウム 2：環境汚染物質が誘発するゲノムおよびエピゲノムの変化（仮）

日本語シンポジウム 1：医療機器の遺伝毒性評価（仮）

日本語シンポジウム 2：一般から公募

ワークショップ（併催・11 月 13 日開催予定）：QSAR 関連ワークショップ（仮）

6. 情報交換会

2026 年 11 月 14 日（土）夕刻～
シティーホール&ギャラリー五反田
五反田 JP ビルディング（旧：ゆうぽうと）(<https://gotanda-hall.jp/>)

7. 実行委員

石井雄二（国立医薬品食品衛生研究所）
石ヶ守里加子（星薬科大学）
岡本誉士典（名城大学薬学部）
川西優喜（大阪公立大学）
佐々 彰（千葉大学）
橋爪恒夫（日本タバコ産業株式会社）
長谷川晋也（星薬科大学）
濱田修一（ボゾリサーチセンター）
福田隆之（ボゾリサーチセンター）
藤本 透（メディフォード株式会社）
今井正彦（星薬科大学内協力者）
真壁朋子（星薬科大学内協力者）

8. 運営事務局：株式会社センキョウ

担当：長谷川美貴，岩淵あやか
〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町 2-4-2
Tel: 022-236-7161 fax: 022-236-7163 Mail: jems2026@senkyo.co.jp

9. 大会 web サイト

<https://www.jems2026.jp/>

2026 年度（令和 8 年度）日本環境変異原ゲノム学会公開シンポジウム 「私たちが化学物質のリスクから守る仕組み：分子メカニズムからレギュラトリーサイエンスまで（仮）」

本公開シンポジウム「私たちがリスクから守る仕組み：分子メカニズムからレギュラトリーサイエンスまで（仮）」では、私たちの生活を便利で豊かにしている化学物質が、使い方を誤ることで健康被害をもたらす可能性があるという現実を踏まえ、そのリスクをどのように科学的に理解し、社会として管理していくのかを多角的に議論します。化学物質による健康影響を未然に防ぐためには、毒性発現の分子メカニズムを解明する基礎研究に加え、実際に私たちがどの程度曝露しているのか、そしてその曝露がどの程度の健康リスクにつながるのかを定量的に評価するレギュラトリーサイエンスの視点が不可欠です。本シンポジウムでは、食品安全委員会における食品健康影響評価の実際、次世代シーケンサーを用いた変異シグネチャー解析、規制上求められる遺伝毒性試験や Pig-a 試験、化学物質管理の最新動向、さらに肝臓オルガノイドを用いた新規試験法の妥当性評価など、幅広い専門領域の演者が登壇し、基礎から応用、行政的視点までを一体的に紹介します。令和 8 年度は初めての地方開催となり、環境変異原研究の裾野を広げる絶好の機会です。東海地域の薬系大学にも広く参加を呼びかけ、将来研究者を志す学生にとって、最前線の科学と社会実装のつながりを学ぶ貴重な場となることを期待しています。

日 時：2026 年 6 月 13 日（土）13:00~17:00

開催場所：名城大学薬学部 八事キャンパス（名古屋市天白区八事山 150 番地）

アクセス：名古屋市営地下鉄「八事駅」徒歩 7 分

世話人：岡本誉士典（名城大学薬学部）・松田 俊（京都大学大学院工学研究科）

開催形式：現地およびオンラインのハイブリッド形式（予定）

参加費：無料，事前申込要

後援：未定

演者（予定）：頭金 正博 先生（食品安全委員会）

：堀端 克良 先生（国立医薬品食品衛生研究所・ゲノム安全科学部・室長）

：豊岡 達士 先生（独立行政法人労働者健康安全機構・労働安全衛生総合研究所）

：石ヶ守 里加子先生（星薬科大学・衛生化学研究室・特任助教）

：ほか、1 名（確定次第アナウンスいたします）